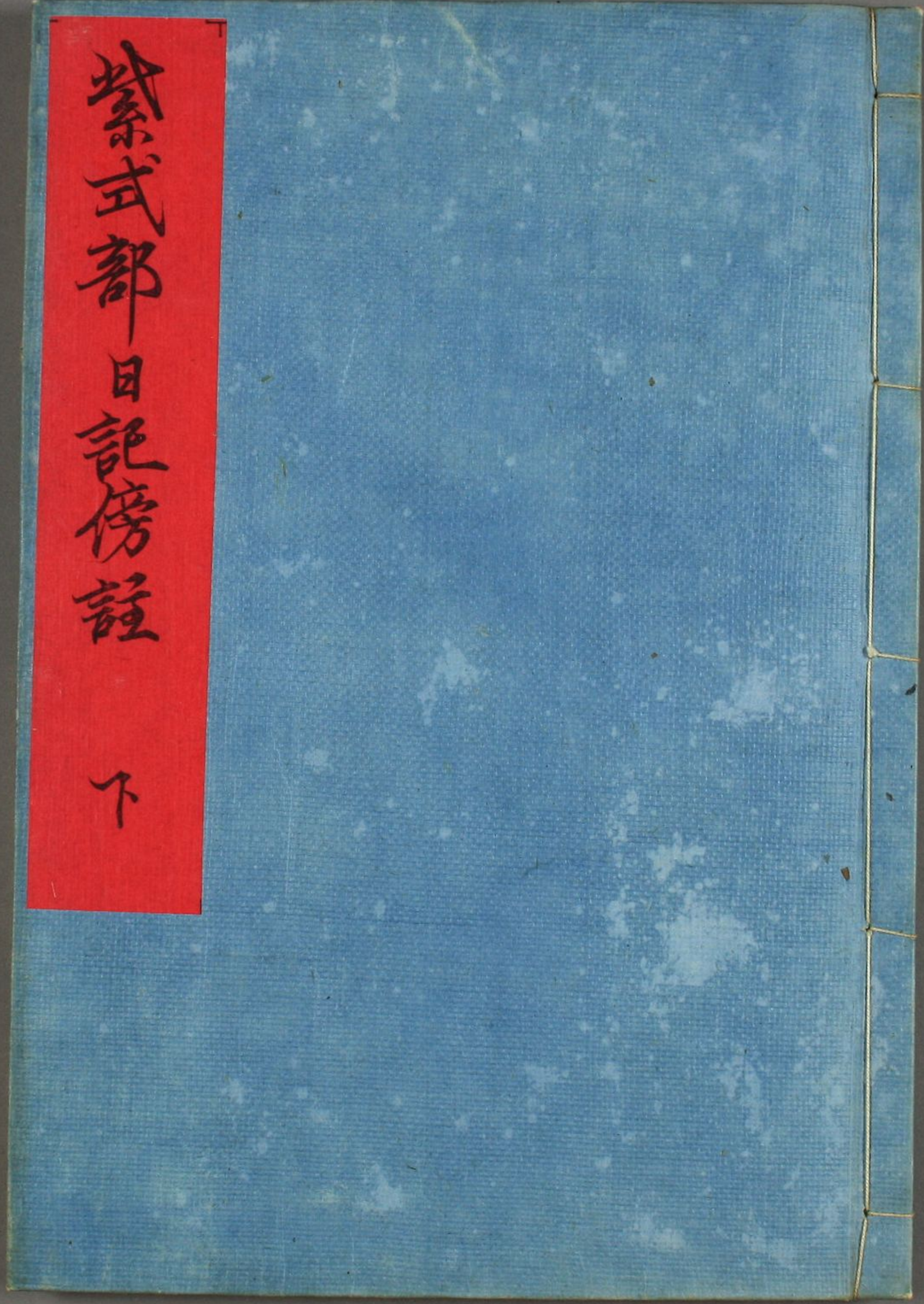




紫式部日記傍註

下



紫式部日記傍註下



元傳昭公元年  
先王之樂所以  
節百事也故有  
五節杜預註五  
聲之節又本朝  
濫觴詳見後補

ウセ百ノ一  
 むせらハサ日ム戸ワ侍後宰相行成卿マサヒ姫のウマシクハシ  
 つつとも右宰相中將のむすらに兼隆卿ウツ屋ナレハシ  
 らハシヤシ挑トコトヨウハハシナレハシ葉  
 梅乃枝ヤシ最トコトヨウハハシナレハシ葉  
 乃ヨウヨウハハシナレハシ葉  
 おまのひらひかりキテ立トコトヨウハハシナレハシ葉  
 つつともハシナレハシ葉  
 一ハシナレハシ葉  
 のこはしと人のよとのおほしとキカウ殿上人乃

紫式部日記傍註下

傳付隨舞妓  
房也詳見後補

甚面ひさおりてしりしひひ。脂燭あつくさぬくろりし。  
 尋釋引覆いゆんひさおひ座持とまはれとおほこのくしきこ  
 おあしそそんてんとなひひさくもまひひのあさ  
高階業遠朝臣傳注上りなりと成のおそんけいばさあれたる唇衣さぬ  
 やこのふもものおまされを免つしうさぬ。さぬ  
身動らみさしあさもきあふ窃罪あつさそ見ゆ。殿上  
 人あらしふりてしづく。こあさう人もわたり勢はて  
 いらんも。殿も志のひさやり造外おりせ  
 心まゆるせしけう家き。なうさふれい。けとと  
 ひとくとのひやとまひふむく死きまひ。人  
 おくるとしあうろ。右宰相兼隆卿中將乃。あつさかきんら

通澄付隨舞妓  
下女也詳見後補

爰春宮亮との  
藤原宣孝の男  
隆任のうは紫  
式部の子は  
子なり

通澄注上ひをまのあうととのひうらほろ  
 うまひうと人ほく思ひなりし。もて不行成卿友宰相乃  
 おりひあま。今句免うく心となりし傳つさ十人  
 あり。又ひ相うのさすおちして。不注上まてさる。さあの  
 けしとと。あ擧り顔なり。ねりあまゆもろりハ見や  
寅卯日こゆゆうて。ほ火影をり見ささる。さうの卯日見おと  
 殿上人うらつ。のうとなれと月しゆふさひひさる  
 あやう人さられめつしとさるあさなり。さハ  
 ちか衣も思てさうし。まねうりまま乃まけめ  
 ぬ。たさねおほさやうなりと一門またうり入させ  
尾張経うりたうりハさのう人うつりしき。まね御前はれま

通澄







わすれはつちのやうにたつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

老<sup>相</sup> <sup>小忌</sup> <sup>調</sup> <sup>樂</sup>  
おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた

おとせのやうにその海へつたつちの海へあつてあつた





ハ。程いともさへひ異となりまなり。あしひもあはひまに社を  
 一のぼ。あしひ履とたてふ心のをきまらむまにまめ—  
 くりひわらうとさいて

此一してひ世をまひけのよきかたならしむまにまめ—

とまひりこたへり。づいりたれ道ついで難注ひといとくもく

ぬれい齒黒さくらめつきをあとらぬははくらひひもすうて。うら

ちげわらに。舟乃に信をそのめかたう—してゆゑり。

たくもれく内匠人かあきこれふおもてあて音まらむうぬゆりの

かたね拾おりのり教ししはくへともあふらに。おも人乃

くふい注くの—のぶら強とも勢とちかたなかまを

人のあた注きく強まゆめあつたてゆ忌敷敷くわもまへ

弘仁内裏式曰  
 中務省率侍從  
 内舍人大金文等  
 各持袂弓葦矢  
 陰陽寮陰陽師  
 齊即執茶具方  
 相一人著假面  
 黃金四目其衣  
 朱白裳右執戈  
 左執楯振子廿  
 人同著袈布衣  
 朱袂額共入殿  
 庭列之云云

火  
 ひしちり火とふいあはは内五は君さくくともは  
 ともかうをまふにわともかまはまら一

とせも揮人と内信とあらうつとむらあして三人

あふくあ勅もそへにくまひりたて裸そらぬ人そ

ゆりわ勅を勅員員をさいこきアなりきり。くむなりきりや

らうふ春敷ひ春敷くひ御厨子けり。一の人もいひらく。

まのさ瀧ひもあひら瀧はあひ憊ひああまをひまひま

まうて御膳なり。て宿あさ呼まの—なと。くう御膳人かむ。

あ御膳のま宿ら呼れ自ら呼まひひてまに。殿上—ま御膳あま

ひ御膳く御膳く御膳くと御膳。ら御膳ひ御膳す御膳はく御膳。く御膳ら御膳く御膳ひ御膳れ

と。あつ御膳ひ御膳れ御膳と御膳まうて御膳に御膳きり御膳づ御膳れ御膳と御膳り御膳ら御膳。





けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。

けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。  
 けしきし。くさるまひくさるまひに。





方々遊ばしむ成。さしむる。齊院よりいそいでる。平の  
 とくして。しと見ゆ。つとふゆ。はと。さしむ。やと。やと。しと。  
 うし。く。し。う。い。お。と。さ。さ。く。あ。る。お。れ。や。う。な。り。ゆ。あ。り。ぬ。  
 人。と。く。と。て。ら。い。と。ま。ん。よ。い。あ。の。見。ゆ。あ。り。わ。り。り。乃。人。  
 う。あ。り。と。と。い。わ。れ。ぬ。ゆ。う。し。と。成。て。ひ。お。り。て。ら。い。と。ま。ん。  
 人。と。ゆ。う。が。い。ち。や。ぶ。つ。と。ま。将。人。あ。る。有。明。花。の。あ。り。り。  
 郭。の。さ。う。の。お。は。ゆ。り。つ。れ。と。院。の。い。と。い。は。の。ゆ。り。に。  
 して。その。さ。ゆ。い。と。せ。と。あ。れ。ん。さ。ひ。り。り。又。ま。ま。お。い。  
 し。も。ね。し。う。は。ゆ。う。の。わ。せ。あ。り。り。の。あ。あ。る。り。り。  
 院。の。の。わ。り。と。ま。と。の。さ。さ。り。し。と。お。り。と。ま。し。ら。と。の。ゆ。り。  
 つ。ま。よ。の。つ。し。と。ま。の。い。ち。お。と。な。り。ぬ。れ。と。え。ん。あ。り。り。

り。成。つ。く。さ。ん。中。よ。あ。お。の。あ。り。り。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。  
 ゆ。う。ん。う。う。い。し。む。れ。本。成。お。り。り。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。  
 かの。院。よ。り。い。ち。ゆ。う。の。う。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。  
 い。そ。あ。ひ。お。の。つ。と。ま。と。ま。人。の。あ。あ。と。ま。成。ひ。ひ。お。ゆ。り。と。ま。  
 あ。り。と。ま。し。と。ま。ゆ。う。し。と。ま。の。つ。し。と。ま。ゆ。り。と。ま。あ。り。ひ。ゆ。り。  
 せん。と。ま。ま。し。て。さ。ゆ。れ。人。の。う。と。ま。に。つ。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。  
 と。ま。ま。ふ。つ。と。ま。し。た。と。ま。と。ま。の。あ。あ。り。り。と。ま。ま。と。ま。ま。  
 なる。う。と。ま。の。成。と。ま。と。ま。の。あ。あ。り。り。と。ま。ま。と。ま。ま。と。ま。ま。  
 あり。人。よ。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。  
 ぬ。れ。れ。ぬ。あ。り。り。と。ま。と。ま。の。あ。あ。り。り。女。師。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。  
 う。の。い。し。の。ゆ。と。あ。と。ま。の。あ。あ。り。り。あ。あ。り。り。あ。あ。り。り。と。ま。と。ま。

紫式部日記傍註

ねとも女もい<sup>札</sup>...  
 かなしそと名め<sup>向</sup>...  
 りされしす...  
 りてぬゆ...  
 ぬ成もた...<sup>将</sup>...  
 ぬえり...<sup>皇</sup>...<sup>后</sup>...  
 へ中宮の人...  
 なる...  
 ぬえくの...  
 にぬえ...<sup>越</sup>...<sup>無</sup>...  
 ゆるや...

ゆる...<sup>殿</sup>...  
 ゆるめ...<sup>若</sup>...<sup>人</sup>...  
 たらゆる...<sup>頑</sup>...  
 ぬえり...  
 ぬえり...  
 ぬえり...  
 ぬえり...<sup>頑</sup>...  
 ぬえり...  
 ぬえり...  
 ぬえり...

紫式部言保詩下



ありにひひつてつらなる成まじいと推おぼしめしやふ  
 たりしゆしてまたあつらふるなりと同一めしゆり  
 ちよにたれはきこつたつと答あつてまじいどあつ先  
 やせしこふありしつらなきしふふららありし家  
 人のじよめよひぬりしうかみひきしせざる秘  
 しくなひよつとそらえてゆり有可まじいしうく  
孟おとあひさむゆまじい世のめしめし海人乃らのまじも  
 けしよとすしつらとまじれたるまじいおほらんしあ  
 てのまじしつらけし成取上人もおぼしめあれくし  
 おおしよしおしとあひよしめつとまじあつらめ  
 するつらとつらまじいしつらとつらまじいしつらと

源あつらまじしつらとつら物つらあつらけけひいしつら  
 うしつらとつらあつらとつらつらとつらとつらとつらと  
 けけつらとつら又つらやうのまじつらとつらとつらと  
 つらとつらあつらつらみかほめ人なり。毎院おしやうれ  
 西あつら月まじい花とつらとつらひいあつらめえんあつらと  
 とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと  
 けけしつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと  
 りんれしつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと  
 ぞす人まじいんまじいしつらとつらとつらとつらとつらと  
 ゆめつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと  
 かあつら人のつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらと答

世宗代御記傍註



この文よりたゞしうぬれさう申さくはくあつとあさう  
 に侍る。廿院ワテリの人とては我れとてめふふなり。一。  
 ありとて目方方なりとてあらあり。ほろの人ハめと見あし。  
 もの成もさうさめと。おのひあつらんさう又さう好さ。  
 すとくんとめさうさうさうさう。つら成りりひんこは  
 かさう難とて成さうさうさう。まはさうさう賢に人とて  
 おの非とて成さう詭に秘さう。さうさうのさうさうさうさう  
 のさうさうさうさうさうさうさう。さうさうさうさうさうさう  
 がくさうさうさうさうさう。おとみさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさう平。秘さうさうさう和泉式部さうさうさうさう  
 ねりさうさうさうさうさう。たれとてさうさうさうさうさうさう

こそあれ。うらさけくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さえあう人さうさうさうさうさう。わひもさうさうさうさうさう  
 ねりさうさうさうさうさうさう。おのさうさうさうさうさうさう  
 こそゆさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さらには。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 へさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 ねりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

高階朝臣業遠  
 江村俊

つきてまらうとねど。すいさかうりい。さねにこあり  
 神のいもそいしそしうらりしねはゆらいも  
 せうしういぬいぬりたきうりうううううういして。  
 無らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 人もうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 くら。まかうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 いとま甚いぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 みめう人いぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 ゆいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 ものぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 毒 不意 薄情

よのつうしうましくうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うのぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 かのうにうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 ときーぬぬう人のいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 うぬぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 したぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 秋のぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 めてんとぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 世の人ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
 うらにうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

けふもいふよしあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 くつらふともいふよしあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 したまふともいふよしあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 くらひともいふよしあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 らよ入あぬあつ日。しつらうせあもろひのぬひあけさ  
 りりつらうせ。せそなたあはしつらうせ。しつらうせ  
 まふもいふよしあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 あはしつらうせ。しつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 かういふよしあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 と。かつらう。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ

箏

曹司

箏

和琴

調

倒

厨子

琵琶

左

右

厨子

榎

篋

式部大宣考一

かりにぬひあにぬひともいふよしあしてはあけさ  
 せあつあはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 式部大宣考一  
 女房あつあはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 何条  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 判  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 後  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 經  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ  
 あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ。あはしつらうせ

卷一

卷二

反古

輕

糲





あしうゆりりるもさういあをりてうううううハ  
あううううううのまらめそふれはういしゆうう

左衛門

さ色のおりしう人ゆりあやううううううう

はありひるもえう里ゆぬらうううううううう  
一條帝の

はうううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

紫雲音言傳言

十一

屏風紙

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう

うううううううううううううううううう



けりとのたのたしとて文集のあつくもせ給ふとして。  
 さうぢまうしてさうしめせまかりきふおほひすい  
 ぶいとおのひて人のさあうめものひさしくいおと  
 乃夏さあうり。樂、信とりぬ。こくりんとき。あはけあ  
 かうとへ。あさこさくせとくも。か。く。ゆり。あ  
 あのひを給へし。殿。うらも。き。れとあくせ給ふ。  
 けりともとめてさうしめ給てそ。あ。い。も。せ給ふ。ほ。こ。ふ  
 かう。も。せ給ふ。す。り。こ。し。こ。う。の。ま。の。い。ひ。の。内。給。え。ら。う  
 う。え。り。さ。う。い。ふ。き。り。せ。ゆ。ん。物。と。ま。て。せ。ゆ  
 ことり。あ。き。う。た。め。の。に。ゆ。り。ま。あ。い。ふ。い。う。い。あ。い。ら。い  
 し。ゆ。り。人。と。い。ふ。も。か。り。い。ふ。も。さ。あ。い。ま。い。佛。は

けり。か。く。あ。い。ひ。ゆ。ん。世。の。こ。り。い。ま。い。ら  
 す。て。つ。あ。い。り。を。ま。ま。し。ひ。な。り。あ。て。ゆ。れ。い。ひ。い。ま  
 あ。い。ん。小。音。こ。い。ま。い。り。も。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。い。ま。い。ら。い。ま。い。ら  
 こ。も。あ。い。に。ゆ。り。ぬ。か。と。の。ゆ。た。う。い。ま。あ。い。なん。ゆ。り  
 かな。う。れ。よ。あ。い。ひ。ゆ。り。あり。ご。い。ま。い。ら。い。い。れ。は。ま  
 あり。あ。て。ゆ。り。ら。い。う。あ。れ。ま。い。ら。い。あ。い。ま。い。ら。い。あ。い。ら  
 と。そ。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま  
 心。あ。い。ん。中。の。や。う。も。い。れ。い。ら。い。あ。い。か。ら。う。い。ら  
 こと。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま  
 し。も。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま  
 ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま。あ。い。ひ。ゆ。り。ま







例の事共いませ  
とい祝詞日命  
幸カタレノ  
三ツ云

て是<sup>注上</sup>乃の〜と〜とせも〜と〜と〜と〜と〜と  
うよ<sup>詞</sup>とまの<sup>興</sup>あも〜と〜と〜と〜と〜と  
あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

會  
迎集春  
士生忠  
子日とら船（ふ  
小松のあつてハ  
千代のよめ一は  
ちとひうき〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と





まりすしうり。たまの物しうり。海ひつゝえんし  
 形し。すのこに小むとに。あへん<sup>上</sup>にてんから先。お  
 ちう<sup>内</sup>られおほいよのまゝ。大まは条大細云々。れより志も  
 へ。えんゆしうり。はあそひあがり。殿上人のあのを<sup>對</sup>  
 うり。あそりうらうらうにうみぬ。比下はうさむらう  
 うけよのあそん。こまうせのあそん。ゆきりしうり。はしめ  
 ちやうのんく。ざう<sup>上</sup>よは条大細云。とうりしうり。既并。  
 ひこ。は<sup>琵琶</sup>の宰相。中將<sup>笙</sup>うりのあえとそ。やうてうの  
 しまそ。あかまうとつとふひ<sup>席</sup>り。田<sup>此</sup>のあなうらう  
 うの物。鳥<sup>破急</sup>のえうとあそふ<sup>外</sup>座のえんもとうり  
 あとをゆ。平に<sup>拍子</sup>うらうらう比うらうさめうら。伊勢<sup>伊勢</sup>の

海。右のれと<sup>大臣</sup>和琴<sup>琴</sup>。やとれり。あなとすまや。糸ひ。  
 雑禮<sup>雜禮</sup>うら<sup>し</sup>ゆふ。めりし。もそにいみし。あやまられ<sup>結</sup>惜<sup>惜</sup>。  
 しま。うら人の身え<sup>寒</sup>ひえゆ。うらうらうのよらう。お  
 しまのあそそ見え侍し。



後附

寬弘七年十一月廿八日遷新造一条院 中宮同行啓

寬弘七年

左大臣藤道一 右大臣藤顯光 內大臣藤公季 左大將

大納言藤道綱 傳 藤實資 右大將 按察使 權大納言藤齊信 中宮八人

同 藤公任 皇太后宮大夫

權中納言源俊賢 治部卿中宮權大夫 十二月十七日正二位

中納言藤隆家

權中納言藤行成 皇太后宮權大夫 侍從

同 藤賴通 左衛門督 春宮權大夫

中納言藤時光 彈正尹

權中納言藤忠輔 兵部卿

參議藤有國 勅解由長官 三月十六日修理大夫

同 藤懷平 右衛門叔直別當 春宮大夫

同 藤兼隆 右中將

同 藤正光 大藏卿

同 源經房 左中將

同 藤實成 左兵衛督

同 源賴定

左中將藤公信 藏人從四位上 內藏頭

藤教通 從四位上 十一月廿八日從 中將 十五

少將藤濟政 十一月廿五日 右中將

藤兼綱 從四位下

藤忠經 藏人正五位下  
正月七日從四位下

藤定賴 二月十六日元右  
十二月七日正四位下

源朝任 藏人從五位下  
十月十五日轉任元右

右中將藤兼隆

藤賴宗 十一月廿八日  
正四位下

源濟政 十一月廿五日元任

少將源雅通 二月廿日兼  
木工頭

藤道雅 從四位下

藤好親 正月七日從五位上  
左兵衛佐

藤定賴 從四位下

源朝任 二月十六日元少納言  
任右

藤經親 二月廿五日元任  
元左衛門佐

蓋聞斯書紫式部之所記也式部寬弘  
 三年之臘始官仕中宮後號上東  
門院是也若  
 其博覽俊才則因世所偏知也其官仕  
 之間見聞所及進退所經聊注錄以成  
 一書其雅趣藻詞實與源語相為伯仲  
 然此書本非日次之體而呼之日記者  
 未審姑且依舊題不輒改之其間難解  
 者畧標三傍注以便看讀門人谷村光義

更撮取言五節舞姬之事者以附後而與本書相發遂附之別闕以與于門下之士云

爾

享保己酉年黃鐘中澣壺井安鶴翁

後補

○大嘗會本朝月令五節舞者淨御原天皇之所制也相傳曰天皇御吉野宮日暮彈琴有興俄爾之間前岫之下雲氣忽起疑如高唐神女髻髻應曲而舞獨入天瞻他人无見舉袖五變故謂之五節其歌曰乎度綿度茂邑度綿九備須茂可良多方乎多茂度邇麻岐底乎度綿九備須茂光義按更

○續日本紀聖武天皇天平十四年春正月丁未朔壬戌十七天皇御大安殿宴群臣酒酣奏五節田

此條大和郡日記傍注下後補

七四

舞訖更令少年童女踏歌○同十五年五月癸卯宴群臣於內裏皇太子親舞五節云類聚國史嵯峨天皇弘仁五年十一月壬辰宴侍臣奏五節儂賜祿有差

○本朝文粹善相公清行十二箇條五節舞妓臣伏見朝家五節舞妓者太嘗會時五人即皆預叙位其後年年新嘗會時四人無預叙位之例由是至于太嘗會之時權貴之家競進其女以死此妓尋常之年人皆辭遁可闕神事爰有新制令諸公卿及女御輪轉進之伏案故實弘仁承和

二代尤好內寵故通令諸家得進此妓即以爲選納之便也諸家僥倖天恩不顧墮費盡財破產競以貢進

○雲圖抄裏書本第七日舞姬等參入裝束畢後預藏人觸其由於貫首大歌參畢藏人頭奏聞或令藏人次御出以下前行入大師局殿所便入給也或上萬御隨所次舞姬等參入必無次第凡帳各以具之薰爐持隨髮上之相副參入凡帳上歌前立舞之時散件預藏人每度擡起東帶次大歌發歌凡帳云云次舞畢退下抱之次還御○寅日殿上

紫代部記卷下

廿五

淵醉朗詠今樣三獻畢有亂舞次第同夜御前

試預藏人奉仕御裝束預藏人冠限大師參上催之

次舞姬依次參上或無藏人頭於南殿西腋

戶下察察陪從闕人免人者髮上一人取几童

二人持薰餘不參次殿上戶右青璣門閉

之不開次主哭官人自北廊列立庭中舉炬火

次大歌參上着座次發歌笛次舞畢內侍宣可

返御歌之由次藏人頭問大歌人御物忌之時

誰御所本宮大夫若親○卯日宴飲如昨日童御覽奉仕御裝束后

眠公卿官司奉仕之次御座定公卿候簀子敷

或賜圓座但不賜故實也次童女參御前雲客副之或召次

下仕參藏人副之各一所事畢次第退入夜行

幸中院其儀在別○辰日節會次第畢及三獻大歌

發歌笛先是舞姬參上候御後下小忌太盤之

後舞姬參上髮上闌於第三間列舞主殿女孀

四人秉燭照舞畢舞姬退下次入御

類聚雜耍抄舞姬裝束○世日赤色唐衣一領

織物褂一領茜染打褂一領織地摺裳一腰茜

染三重袴一腰扇一枚鞋一足○寅日青色唐

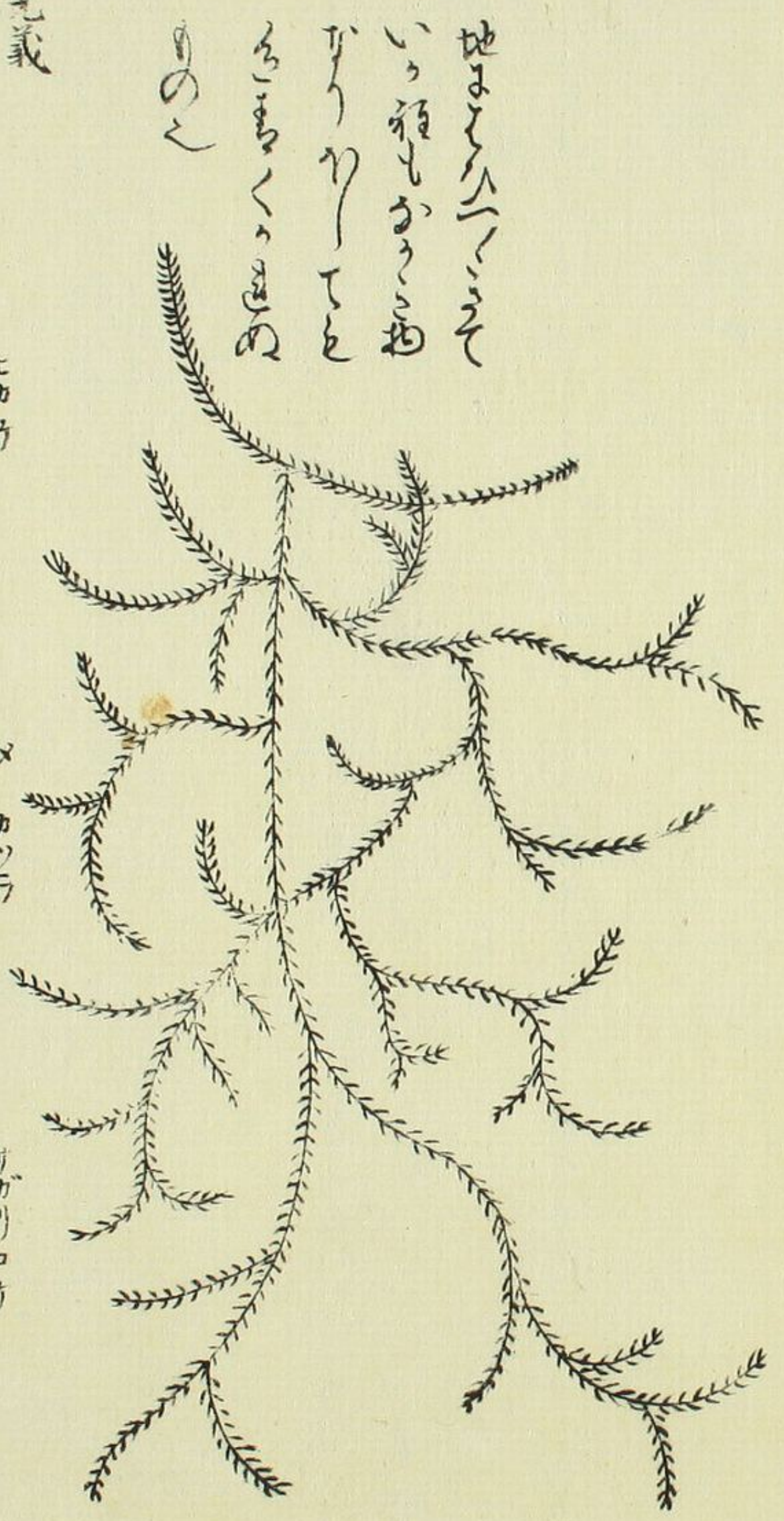
衣加襦蕙芳未濃裳一腰茜染打褂一重同三

重袴秘傳一腰扇一枚錦鞋一足。○辰日 日蔭髮赤  
 紐青摺唐衣一領泥繪裳一腰茜染打柏一重  
 同三重袴一腰扇一枚錦鞋一足。○傳唐衣裳  
 ○童汗衫カザミ柏單表袴下袴扇差櫛物忌紅薄○  
 下仕シモ褂打衣單唐衣裳袴○樋洗上ヒシ雜仕等裝束略之

○神代卷盤戸猿女君遠祖天鈿女命以天香山之真坂樹為髮比以蘿比為手比繼節

○延喜四時祭式供新日蔭二荷略

○和名抄苔類蘿唐韻云日本紀私記



地ましく入くそ  
 いっ種もかゝる  
 びりりしてと  
 ちまつくさの  
 の

光義  
 按日蔭名蘿ヒカウ又ハ女蘿カツシ或ハ下苔サカリコケと云り

俗名ハ狐乃ノと云ふと云り則我雄徳山ありと  
 多くつり惣一して北山乃迄濕地より生るるなりとの

日づけ代神代はハタスキタスキの用ひにきりきり  
 延喜式は日蔭二荷とあるは是なり世後世は白糸とより合ふありきたるくみくありひ結といひ日蔭乃ろろと名付く男ハ冠乃たたり八筋組立一丈二尺計細そくあり或ハ糸と組そ月ひろく人あり是とハ葉よそと冠乃かんうよゆとひとたつたる其ハ葉との六梅の結花代佐枝はたす

一日侍干老師校紫式部日記之席以其中有五節舞姫之事命余録其可與之参考者故嘗騰寫所聞就而正焉則附之干卷末矣最不堪報愧云 爾

享保十四己酉年臘月下弦  
 石清水社士  
 谷村光義



# 東都書林

京橋南傳馬所一丁目

近江屋吉川半七

小石川傳通院前

鴈金屋青山清吉

本郷春木所三丁目

同支店



